

# 白黒の中に「補色」の概念

## 「どう見てももらえるか」に影響

村上誠  
木版画展 15日まで 喫茶ママで

「村上誠木版画白黒展」が、喫茶ママ(盛岡市本町通1の8の10)で開かれている。作者自身が感じて

◆

も現れ、白と黒の表現と相まって、独特の空気感を伝える。「絵を割してくれる」と語る。

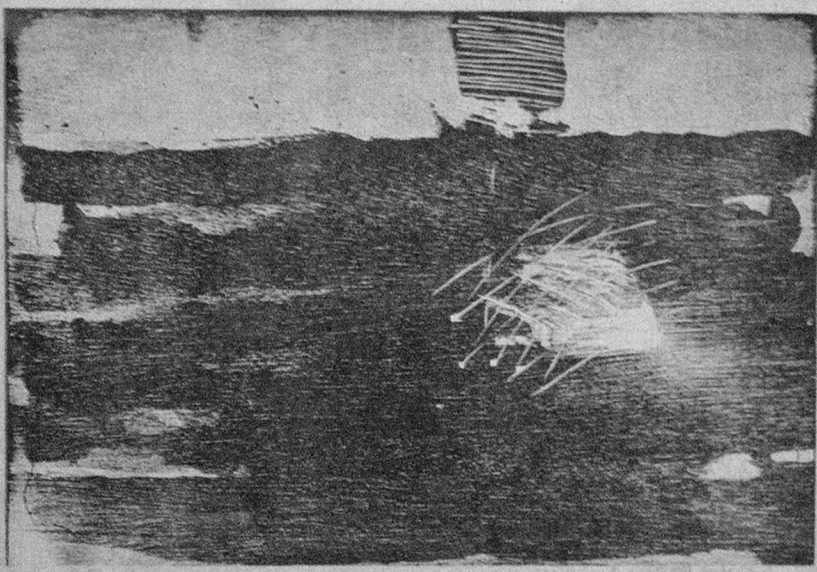
「森の化石」は黒の面積が広い中に、白の線や形が入る。白い部分を「補色」と呼ぶ。表現で、これ

た」と村上さん。

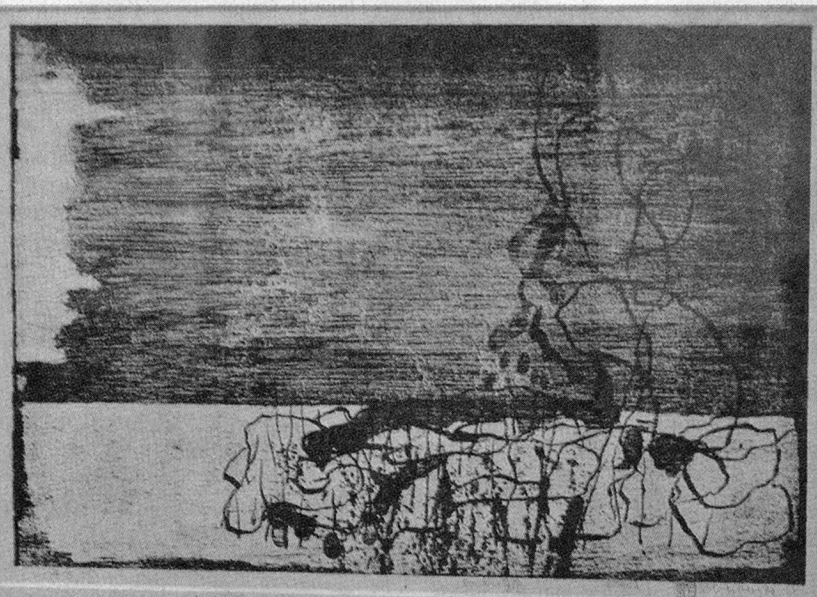
中間色のない、白と黒だけの表現。「黒と白の面積をどうするか、いつも悩む。それだけで絵が変わってくるので、楽しんでもある。強調したいものばかり描いても強調できない。甘いあんこ、塩を加えて甘味を引き立てるような考え方。抽象表現をする人は補色の概念を利用していい、その考えは色だけのことではなく、どう見てももらえるかという部分にも影響する。表現で、これ

分を入れることで、黒い部分がやや抑えられている。「絵には補色というものがあるが、白黒でどう補色をつけるか」と考えた。

午前11時から午後9時まで。日曜定休。



「森の化石」



「一片の詩」